

(個人用)

行政視察等報告書（個人用）

令和 5 年 11 月 24 日

知立市議会議長 様

報 告 者	那須幸子
日 時	11 月 16 日(木)～17 日(金)
視察（研修）場所	福島県福島市 千葉県市川市
目 的	災害時におけるペット同伴避難所について 小型リサイクルを通じた障がい者就労支援について
【概 要】 《福島市》 災害時におけるペット同伴避難所について ☆導入に至った背景と経緯 災害の状況 【洪水災害】 ・ 南北に阿武隈川が流れ、荒川・松川・摺上川が注ぐ ・ 令和元年台風 19 号（東日本台風） 【地震災害】 ・ H23.3.11 東日本大震災：震度 6 弱 ・ R3.2.13 福島県沖地震：震度 6 弱 ・ R4.3.16 福島県沖地震：震度 6 弱 【火山災害】 ・ 吾妻山 H26 年、R 元年に噴火警戒レベル 2（火口周辺）に引き下げ。 ☆ペット同伴避難所 設置前の状況 ◆指定避難所（令和 3 年 39 箇所） 駐輪場や軒下の為、飼い主にとって安心して避難できなかった	

- ◆令和元年の台風19号の経験から安心して避難できる「ペット同伴避難所」の設置が求められていた。

☆ペット同伴避難所の概要

- ◆設置：令和3年9月1日（木）
- ◆場所：福島市勤労青少年ホーム体育館
※ふくしん夢の音楽堂・古関裕而記念館と同一敷地内
- ◆開設：レベル3
- ◆定員：24世帯

☆この場所に設置した理由

- ◆安全性：浸水想定区域ではないこと
- ◆場所：①多くの市民が場所を認知している
②広大な駐車場を完備しており車中避難が可能であること

☆開設に向けた取り組み

- ◆ワークショップの開催
福島県獣医師会、県北動物愛護ボランティア会、保健所衛生課危機管理室が参加し、東日本大震災での経験も踏まえ意見交換
- ◆「災害に備えた飼い犬のしつけ方教室」の開催
計17組（40人、17頭が参加）
- ◆「ペット同伴避難所現地視察」を実施
- ◆「ペット同伴避難所避難訓練」を実施
避難所受付、体育館への誘導、テント設営、飼い主グループの立ち上げ等を実施

☆ペット同伴避難所の充実

- ◆福島市初の動物愛護ボランティアの設置
・ボランティアの種類

ミルクボランティア、猫保護ボランティア、預りボランティア
シャンプーボランティア、しつけボランティア、災害時ボラン
ティア

◦ボランティア数 22名（令和5年5月15日時点）

◆ペット同伴避難所 実地研修・防災訓練の実施

◦福島市動物愛護ボランティア、住民（ペット同伴）、獣医師会

◆災害時ボランティア実地研修

◦避難所内の経路及び備品の確認

ルートの確認、テント、アンカー、フード等備品の使い方

◦テント、ケージ、設営訓練

ブルーシートの敷設、テントの設営、ケージの設置

◆ボランティアと連携した市民参加型のペット同伴避難所防災訓練

◦訓練1 避難所の受付及びペット状態確認

◦訓練2 避難者を避難所内へ案内

◦訓練3 ペットの世話及びケージの清掃

令和5年度の予定

◆猫専用ケージの購入

◆ペット同伴避難所避難訓練及び市動物愛護ボランティアの研修

（10月）危機管理室・保健所衛生課

◆しつけ方教室（10月2回／11月2回）

保健所衛生課

《福島県獣医師会と協定締結》

令和4年3月29日

・「災害時の同伴避難所における動物の支援活動に関する協定」
を公益社団法人福島県獣医師会と締結

・協定内容同伴避難所に避難してきたペットに対する応急処置
診療施設への受け入れ、飼育に関わる管理指導や公衆衛生に関
すること。

【所感、知立市における課題】

近年、犬や猫の飼育頭数は 2000 万頭を超えていると言われてい
ます。飼い主にとってペットは家族の一員です。

福島市の災害時のペットの取り扱いについて、市民の方に寄り添う
大変手厚い取り組みをしていると感じました。特に福島県獣医師会と
協定締結を結んだ事は避難先でも安心して過ごせる環境になり、飼い
主にとって嬉しい支援だと思います。

又、ボランティアと連携した市民参加型のペット同伴避難所防災訓
練はとても画期的で必要なことだと強く感じました。

令和元年に発生した台風 19 号の経験から、安心して飼い主が躊躇
せずペットと一緒に避難できる所の設置要望に応え、令和 3 年 9 月に
設置。又動物愛護ボランティアも災害時に飼い主とペットを支援する
ために設置しました。

知立市とでは地域性も異なるので、福島市と同じようにはいかない
と思いますが、災害時にペットと飼い主が離れ離れになってしまうこ
とで、離れた動物を保護することは大変な労力と時間が必要になりま
す。又、繁殖により増加することで住民の安全や公衆衛生上の環境が
悪化します。なにより動物たちにとって残酷でかわいそうな事です。

市民の方に災害時のペットの取り扱いを示して頂き、ペット同伴避
難訓練の実施等進め、飼い主にとって安心できる、災害時のペットに
対する対策のご検討を強くお願いします。

※報告書は視察（研修）場所ごとに作成してください。

報告書は視察（研修）終了後 1 週間以内に提出してください。

《市川市》

☆市川市の障がい者就労支援について

- ①チャレンジド オフィスいちかわ
 - 市川市役所の障がい者雇用制度
- ②市川市障がい者就労支援センター「アクセス」
 - 本市単独事業
 - 就職と障がい福祉サービス利用の相談支援を担う
- ③障がい者就業・生活支援センター「いちされん」
 - 国・県の指定委託事業
 - 事業主に対して雇用支援も実施
- ④ハローワーク市川
 - 就職を希望する障がいのある方に、職業相談、求人紹介などの支援を実施
- ⑤自立支援協議会 就労支援部会
 - 市内障がい者就労支援の関係者の協議体
- ⑥障がい福祉サービス事業所（就労系）
 - 就労移行支援 就労継続支援

☆小型家電リサイクルを通じた障がい者就労支援について

◆事業開始するまでの経緯と問題点について

◦経緯

これまでの「燃やさないごみ」などとして処理されていた小型家電の中に金・銀・レアメタルなどの貴重な金属が多く含まれていた。平成25年4月1日小型家電リサイクル法が施行されたことを踏まえて、環境省の実証事業による支援のもと、開始した。

・問題点

回収後の一時保管場所の確保及び適正な管理

◆事業内容について

市が公共施設に設置した回収ボックス（市内 21 ヶ所）から分別収集した使用済小型家電を市川市清掃業協同組合に引き渡し、同組合が市内の障がい者就労施設等と連携し、使用済小型家電の分解、選別等を実施し、有用金属等の再資源化を行っている。

◆事業の効果について

現行の使用済小型家電リサイクル事業は、再資源化の適正な履行及び障がい者就労施設における福祉的就労の拡大に向けて一定の効果を上げている。

障がい者就労施設にて手選別作業をすることにより、技術の向上及び雇用機会の創出につながる

◆今後の課題について

現行事業では各拠点に設置されている回収ボックスを当課現業職員にて回収し分別作業を行っているが、現業職員の減少により、委託等の検討が必要となる。

多種多様な製品の販売により、異物混入のリスクが増加している為、回収対象品目の改正や市民への周知が今後とも必要になってくる。

【所感】

作業所は第 4 レンコンの家(就労継続支援 B 型事業所)で市川市の小型家電リサイクル事業に協力している市川市清掃協同組合と連携し、オフィスや一般家庭で不要となった家電などを回収、解体、分別作業を行っています。解体、分別作業を行い、工賃を得ています。担当者の方が丁寧に指導し簡単な作業工程を経てパソコンや小型家電の解体、分別作業に取り組めます。

作業されている方々の熱心に黙々と一生懸命に働いている姿に感動致しました。

知立市の障がい者施設においても、こうした取り組みが必要だと強く感じました。